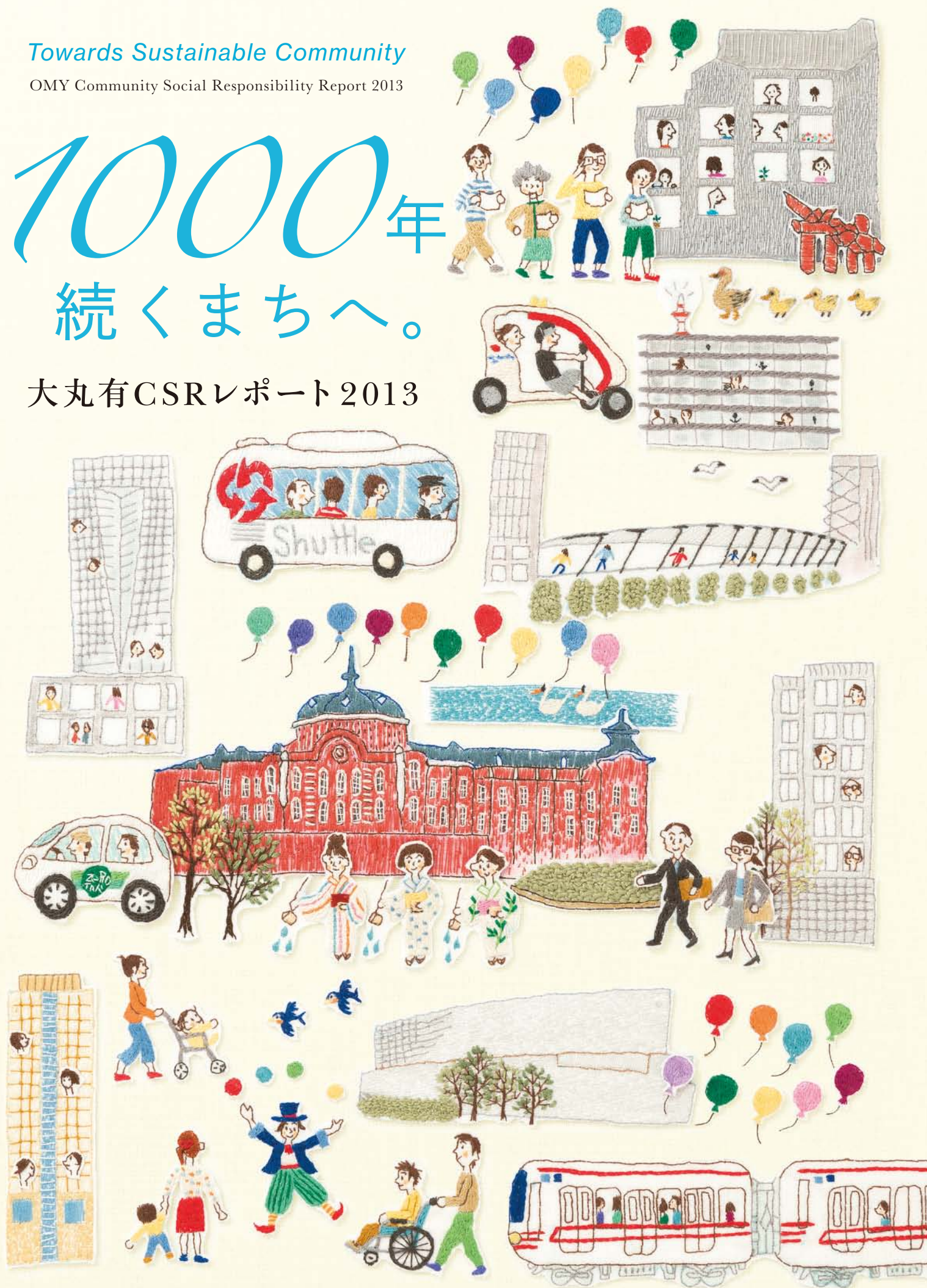


OMY Community Social Responsibility Report 2013

大丸有CSRレポート2013



1000年先まで、 いきいきとしたまちでありたい。

多様な“人”と“コミュニティ”がつながり新しい価値を生み出す——
そんなサステイナブルなまちづくりを進めるため
わたしたち3つの組織は、ステークホルダーと連携しながら
さまざまなアクションを展開しています。

大丸有のステークホルダーと まちづくりを推進する3つの組織

NPO 法人 大丸有エリアマネジメント協会 (リガーレ)

人が気持ちよく働けるまち、訪れる人びとに愛着をもっ
ていただけるまちを目指して、ワーカーが主体となって、
セミナーなどのイベントの開催や、目的の共有化へ向けた
コミュニティづくりなどの活動に取り組んでいます。

だいまるゆう 大丸有について

東京都千代田区にある、大手町・丸の内・有楽町の3地区は、日本の
発展を支えたビジネスと文化の中心地として、地理的・文化的・経済的
な結びつきが強く、これまで一体となってまちづくりを進めてきました。

その過程で、地区にかかわる地権者・ビルオーナー、立地企業、立地
店舗、就業者、行政、インフラ事業者、来街者などの人びとが有機的に
連携し、形づくられてきたコミュニティがだいまるゆう[※]です。

※大手町・丸の内・有楽町それぞれの頭文字をとって名付けられました。

大丸有コミュニティ

立地企業

インフラ
事業者

立地店舗

行 政

地権者
ビルオーナー

来街者

就業者

サプライヤー

生産者

地域とのつながり

一般社団法人

大手町・丸の内・有楽町地区 まちづくり協議会（大丸有協議会）

まちづくりにかかわる企業・団体、行政などと連携をと
りながら、大丸有がグローバルな都市として持続的な発展
を遂げられるよう、都市空間の適切かつ効率的な開発、利
活用を通じたまちづくりをすすめています。

一般社団法人

大丸有環境共生型まちづくり 推進協会（エコツェリア協会）

新丸ビル10階の環境戦略拠点「エコツェリア」をベ
ースに、産官学民とのパートナーシップを図り、大丸有の
まちづくり推進やエコに関する調査研究と情報発信、各種
イベントの開催などを行っています。

TOP MESSAGES

トップメッセージ

大丸有エリアにおいて持続可能なまちづくりを推進する
3つの組織の代表者からのメッセージです。

「自由学園」型ビジョンで 環境、社会、経済の^{ていりつ}鼎立を目指す

一般社団法人 大丸有環境共生型まちづくり推進協会（エコツツェリア協会）理事長

伊藤 滋（いとう・しげる）



エコツツェリア協会には、23万人の就業者に加え、仕事や遊びでまちに来る大勢の人びとにライフスタイルを提案し、環境活動を推進する役割があります。しかし住まうエリアでない大丸有で、夜間の何十倍にもなる就業者・来街者の皆さんと一緒に成果を達成するのは容易ではありません。2013年度に取り組む、環境ビジョンからサステイナブルビジョンへの改定では、旧来の労働組合的な「一致団結」型ではなく、柔軟性と多様性を尊重した「自由学園」型なビジョンとすることで、大丸有の環境まちづくりを大きく進化させたいと考えています。さらに取り組みのフィールドを大丸有エリアに限定せず、地方や周辺地域と課題や目標を共有しながら連携し、環境、社会、経済（ビジネス）の鼎立、成果と価値の共有を進めていきます。

エリアマネジメント活動の発展に向けて

特定非営利活動法人 大丸有エリアマネジメント協会（リガーレ）理事長

小林重敬（こばやし・しげのり）

リガーレは2002年9月に設立されて以来、シャトルバスの運行支援、イベントやセミナー、丸の内検定の実施等、主にソフト面のエリアマネジメントを通じて大丸有エリアの活性化を担い、昨年10周年を迎えました。近年、環境や防災など、より公共性の高い活動がエリアマネジメント組織に求められるようになりましたが、現時点で組織がそれらを担うには、財源、権限等の課題があります。そこで全国の大都市都心部エリアマネジメント組織や行政とともに議論する「環境まちづくりサロン」という場をつくり、昨年末の「フォーラム」において提言しました。今後も、このネットワークを活かし、エリアマネジメント組織活動の深化・拡大に取り組んでいきます。



CSV(Creating Shared Value) 型 まちづくりの推進

一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会（大丸有協議会）理事長

合場直人（あいば・なおと）



120年以上のまちづくりの歴史がある大丸有には、いつの時代もさまざまな社会的・地域的課題が顕在化します。そのような課題に対して複数の取り組みを掛け合わせて「新しい価値」を生み出すことに努めています。エネルギー問題や安全・安心なまちづくりへの取り組みは、ビジネスセンターとしての競争力強化に加え、観光面での魅力向上につながります。交通系マネーカードの決済機能を用いて環境基金を形成する「エコ結び」は、店舗や就業者等の環境アクションへの参加意識を高めています。今後も、「社会テーマ」×「企業活動」の掛け合わせ、「まちづくり」×「人」の掛け合わせ等によって、地域の魅力を高め、日本社会を牽引するCSV型まちづくりを推進していきます。



INSIGHT

サステイナブルなまちづくりを進めていくためには何が必要か、大丸有への要望と期待をお二方からうかがいました。

グローバル都市として「文化力」は欠かせない 大丸有は「東京文化」のポータルとなれ



吉見俊哉 (よしみ・しゅんや)

東京大学 副学長、教育企画室室長、大学総合教育研究センター センター長。東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授。著書は、『メディア文化論』(有斐閣)、『大学とは何か』(岩波書店)、『ポスト戦後社会』(岩波書店)、『都市のドラマトウロジー』(弘文堂)、『メディア時代の文化社会学』(新曜社)、『博覧会の政治学』(中公新書)、など多数。

現在、ロンドン、パリ、ニューヨークなど国際競争力の高い都市では、「政治」や「経済」と並んで、「文化」が都心を活性化する柱になっています。翻って、東京では、国内外を代表する4,000社の企業が集積する大丸有は、「経済」の中核、大丸有の南西に位置する永田町・霞ヶ関は「政治」の中核を担っていますが、「文化」の中核を担うのはどこかというところ、現状では魅力的な顔がありません。そこで改めて、東京の文化の中心エリアを考えてみたい。私はその候補地を、大丸有の北に位置する、神保町、小石川、御茶ノ水、秋葉原、本郷、上野、谷中にかけての一带だと考えます。このあたりは、実は半径1キロ圏にすっぽり入ってしまう非常に近接した地域です。しかも、東京における歴史的蓄積＝文化的要素が高度に集中した特別なエリアです。

東京は、アジアで西欧近代をもっとも深く体験し、格闘し、独自の文化をつくりあげてきた都市です。近代を通じ、東京

は東アジアの中心であり、価値の高い近代文化遺産を蓄積してきました。施設、機能、そして歴史の蓄積こそ、文化力の根元です。

上野には博物館や美術館、東京藝術大学が集まり、本郷には東京大学があり、御茶ノ水から神保町・神田にかけては出版社・本屋街があり、私立大学も多い。秋葉原には、アニメを中心とするクールジャパンの文化もある。コンパクトなエリアにこれほどの要素が凝縮している場所はほかにはないでしょう。ところが我々はそれらをバラバラにしか把握してこなかった。「これが東京の文化だ」と一体的に打ち出せなかったのです。これらがまとまった一体的な地区として整備されたとき、エリアが相互に響き合う相乗効果が生まれ、東京文化全体の魅力・発信力向上へとつながっていくはずです。

では、江戸城のおひざ元でもあり、東京の玄関口でもある大丸有の文化力を高めるために、この地区はどう役立つでしょうか。一つには、大丸有エリアの各所に、上野や本郷、神保町などのコンテンツのポータル機能を埋め込むことです。例えばアネックスを設置する。日本郵政と東京大学総合研究博物館が協働で丸の内J Pタワー内にオープンさせた「インターメディアテク」はいい事例です。大学や美術館・博物館のコンテンツを、先端のメディアテクノロジーを駆使して、大丸有のまちで体感できるようにする。国内外の文化観光の誘致に効きますし、大丸有で働く人たちをカルティベイトする(素養を磨く)ことにもつながります。

また、インフラ整備も必要です。千代田、中央、文京、台東の区境を越えて巡回するミニバス等のルートの開設や、パブリックアートを使ったまち歩きコースの開発に期待しています。東京に初めて来た外国人が、丸の内を起点に神保町から本郷、上野・谷中をぐるりと周遊するだけで、東京のイメージは大きく変わり、深まるはずです。また、集まった文化コンテンツを大丸有で一体的に活用する中核施設も必要です。例えば、東京駅の駅前から行幸通り、皇居前までを一つの広場として活用できれば、ビジネス街のイメージが強い大丸有における文化の取り組みを、世界中に印象付けるでしょう。

多様な能力の参画こそ未来の価値づくり 多面的なポートフォリオを 大丸有のまちづくりへ反映しよう

“Womanomics (ウーマノミクス)”という言葉をご存知でしょうか。これは、ゴールドマンサックス証券のチーフ・ストラテジストであるキャシー松井さんが、1999年に提唱された「男女間の雇用格差解消は、日本経済を押し上げる効果がある」という考え方です。単なる女性の社会進出推進ではありません。2010年10月発表のレポートによれば、GDPの水準を約15%押し上げる可能性があるといえます。

なぜ女性の活用が、経済の持続的な発展に寄与するのでしょうか。組織にさまざまな考えをもつ人材が同時に存在することで、多面的な視点をもつことができ、リスクへも耐性が強化されるからだと考えられます。実はこれは、女性に限った話ではなく障害者や外国人など、多様な人たちの参画こそが、成熟期を迎えた経済活動を推進するエンジンになるといえます。一つのゴールに向かい同質な戦力のみを集中投下する、という時代から、消費者、地域、バリューチェーン等と共働してゴールをつくっていく時代に変わりつつあります。

最近のキーワードは、“Diversity (多様性)”から、“Inclusion (包含)”へと進化しています。「多様なだけ」では不十分であり、目指すべき未来づくりに向けて、それぞれの違った特性を最大限に発揮できる組織づくりをすることが、結果として社会の持続的な発展につながる、ということでしょう。しかし現状は、先進的まちづくりを進める大丸有でも、女性・障害者等の活用を「コスト」とみなす企業がまだまだ少なくないと聞きました。これは従来の短期的な成果のみを追求する前近代的経営者の「遺産」でしょう。世界の中で生き残れる日本、競争力ある企業をつくるためには、企業と社会を両輪で発展させCSV的な発想で価値を創出する必要があります。いかに女性や障害者、マイノリティを活用するか、4,000以上の企業が集まる大丸有にとって、今こそアイデアを出し合い、アクションを起こしていく最後のチャンスだと思います。

こうした意識を醸成していくためには、新しい「企業文化」をつくり出す人材や知恵を携えたリーダーの存在が必要です。そしてその知見は、企業単体だけでなく、社会で共有すべき「ソーシャル・キャピタル」になっていきます。この重要性

を説いたシカゴ大学のロナルド・バート氏は、各組織を横断的に行き来して情報の伝達を行う人こそ、これからのキーパーソンであり、最も市場価値をもつ人となると指摘しています。

ビジネスでのイノベーション実現のためには、ソーシャル・キャピタル的人材の育成とともに、地域に目的や共感をもって集えるようなコミュニティを増やす必要があるでしょう。今後より進むグローバル化を生き抜く上で、製造・金融等に限らず、食や医療サービス、ホスピタリティなどのプロフェッショナルを養成し、多彩なポートフォリオを構築することにより、ソーシャル・キャピタルを強化していくことが、ビジネスの、まちの、持続的な発展につながっていくと思います。こうした取り組みを一個人、一企業だけで押し進めていくことはできません。ロールモデルとなるような個人や企業の取り組みを、まちとして本気でサポートし、加速させ、実現していく大丸有に期待しています。



仲條亮子 (なかじょう・あきこ)

大丸有エリアマネジメント協会理事。早稲田大学 大学院ファイナンス研究科 非常勤講師。Google株式会社 執行役員。著書に『ハーバードの「世界を動かす授業」』(共著、徳間書店)がある。

ACTION

2012年度のCSRアクション

1000年続くまちを目指して、私たちは大丸有にかかわる人びとと連携・協力しながら、さまざまな取り組みを行っています。

まちづくり

「新顔」ビル、登場

これまでの蓄積を活かしつつ、時代のニーズに沿った機能を取り込みながら、ビルが生まれ変わっています。(2012年度に登場したビルを紹介しています。)

JPタワー

敷地面積：約11,600m²／延床面積：約212,000m²／階数：地上38階、地下4階、塔屋3階／高さ：約200m／事業主：日本郵便、J R東日本、三菱地所



JPタワー

5月に旧東京中央郵便局敷地に、JPタワーが竣工。建物低層部に、旧東京中央郵便局舎を一部保存・再生しつつ、オフィスのほか、国際カンファレンスセンター「JPタワーホール&カンファレンス」、観光・ビジネス情報センター「東京シティアイ」、JPタワー学術文化総合ミュージアム「インターメディアテック」が置かれました。2013年3月には、商業施設「KITTE (キッテ)」がオープンし、来街者も多くつめかけています。

JPタワーをもっと知りたい！ <http://jptower.jp/>

東京駅丸の内駅舎

敷地面積：約117,000m²（うち特例敷地部分約24,600m²）／延床面積：約43,000m²／階数：地上3階（一部4階）、地下2階／高さ：約46.1m／事業主：J R東日本

1914年に創建された東京駅丸の内駅舎。戦災により一部焼失し、1947年に修復されたものを、保存・復原工事を行い、10月に外観を創建当時のままに再現した形で竣工。往時をイ

メージしながら、巨大地震にも対応できるよう免震構造を導入しています。竣工後は観光・撮影スポットとして評判を呼んでいます。駅舎内にある東京ステーションホテルも、過ごしやすさと格調を今の時代にあわせて生まれ変わりました。



東京駅丸の内駅舎

東京ステーションシティ

<http://www.tokystationcity.com/>

大手町フィナンシャルシティ

敷地面積：約14,100m²／延床面積：約242,500m²／ノースタワー・階数：地上31階、地下4階、高さ：約154m／サウスタワー・階数：地上35階、地下4階、高さ：約177m／施行者等：都市再生機構、三菱地所、NTT都市開発、東京建物、サンケイビル

内閣官房都市再生本部による「都市再生プロジェクト（第5次）」に基づく、大手町連鎖型都市再生プロジェクトの第2



大手町フィナンシャルシティ

弾として、10月に大手町フィナンシャルシティが竣工。日本政策金融公庫、日本政策投資銀行の本社機能が移転したほか、大手町エリアの国際金融機能の強化に向け、業務支援施設として「東京金融ビレッジ」や英語対応可能な医療機関「聖路加メディローカス」が設置されています。複数の通信事業者が利用可能な「インターネットデータセンター」を整備し、地域防災とBCPの能力を高めるため、非常用電源、医

療材料・薬剤の備蓄、周辺との通信回線（内線）、帰宅困難者受け入れなどに対応しています。緑化や保水性舗装の採用、PAL、ERRそれぞれ段階3を達成するとともに、日本橋川沿いに「エコミュージアム」が登場しました。

大手町フィナンシャルシティに、こんなお店も！

<http://www.otemachi-financialcity.jp/>

環境まちづくりの取り組み

まちの再開発にあわせて、さまざまな環境技術が研究・導入されています。エリア外の再開発にも、大丸有の知見が活かされています。

エコミュージアム

大手町フィナンシャルシティの日本橋川沿いに出現したのが、生物多様性・再生可能エネルギーの先進的な取り組みを紹介する「エコミュージアム」。軽量の屋上緑化技術を利用した「湿性花園」や、ビル街でホタル飼育をチャレンジする「ほたるのせせらぎ」、サウスタワー屋上の太陽光発電や、デジタル百葉箱の気象情報が見える化した「サロン」が並びます。さらに都市型植物工場の実証実験「アーバンエコファーム」が設置され、野菜や果物が栽培されています。

エコミュージアムを見たい

<http://www.ecomuseum.jp/>

次世代低炭素型技術実証オフィス

新丸ビル「エコツェリア」等で取り組まれてきた、「LED知的照明システム」「輻射空調システム」を複合導入した「次世代低炭素型技術実証オフィス」が、9月に第10回 内閣府「産学官連携功労者表彰」の環境大臣賞を受賞しました。就業者に我慢を強わずに、30%を超える低炭素化を実現した点等が評価されました。この成果は先進事例の横展開として、「茅場町グリーンビルディング」（2013年5月竣工）に導入されました。

エコツェリア施設紹介はこちら

<http://www.ecozzeria.jp/about/facility.html>

エリアマネジメントによるまちづくり

まちづくりは、つくったものをどう育て、活用し、次世代に受け継いでいくかが重要です。大丸有では、都市のエリアマネジメントをまちづくり団体や地権者が連携して進めています。

エリアマネジメント広告事業の展開

大丸有エリアの景観形成とエリアマネジメント組織の財源確保の両立を目指し、東京都屋外広告物モデル事業の仕組みを活用して、丸の内仲通りにおいて屋外広告物の掲出事業に取り組んでいます。自主ルール「屋外広告物ガイドライン」にのっとり、自主審査会の審査を経て、まち並みに合ったバナーフラッグが掲出されています。

環境まちづくりフォーラムの実施

大都市のエリアマネジメント組織が集い、課題・事例を共有し、「まちの運営」を進化させるため、2011年度より環境



環境まちづくりフォーラム

まちづくりサロンが展開されています。2012年度はサロンとともに、名古屋（10月）、大阪（10月）、東京（12月）で環境まちづくりフォーラムが実施

されました。各エリアのステークホルダーと、全国のエリマネ組織の知恵が結集し、官民連携を中核とした、「提言」にまとめられました。

環境まちづくりフォーラムをもっと知りたい！

<http://machizukuri-forum.net/>

ACTION

2012年度のCSRアクション

コミュニティアクション

市民コミュニティ

ビジネス街は、働く場だけではないと考える人たちによる市民コミュニティが数多く活動しています。

丸の内朝大学

「丸の内朝大学」はまちにすっかり定着しました。2012年度はのべ75講座、2,568人が受講。地域との連携では、富山や三重による地域の魅力発見を、地域住民と大丸有市民がコラボして企画にする「地域プロデューサークラス」や、福島大学と共同開催した「復興学クラス」等で学んだ人びと等が、受講期間が終わっても旅行・イベント企画等で交流が続いています。取り組みが評価され、2012年度グッドデザイン特別賞「地域づくりデザイン賞」を受賞しました。
もっと丸の内朝大学！ <http://asadaigaku.jp/>

「ON!」「SHAREISM（シェアイズム）」の発行

大丸有協議会は、健康・運動、おもてなし、街づくり今昔、などを特集し、まちの楽しみ方を提案する、「ON!」を3号発行。「大丸有MAP-ON!」もリリースしました。エコツェリアは、サステイナブルなライフスタイルを提案する「SHAREISM」を年4回発行し、CSV流な暮らし方のヒントを提案しています。
「ON!」を見てみよう！
<http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp/on/>
「SHAREISM」する？（Facebookページ）
<https://www.facebook.com/shareism>

丸の内軟式野球大会／リガーレセミナー

ビジネス街で働く人たちが主役となって交流・体験をする活動を、リガーレが展開しています。第66回丸の内軟式野球大会には、58チームが参加し、熱戦を繰り広げました（優勝は日立製作所）。就業時間後の交流を深める、リガーレセミ

ナーも開催しています。浴衣の着付け、フラワーアレンジメント等、日々の暮らしに役立つテーマごとに、企業の垣根を越えて和気あいあいとした交流が進んでいます。
リガーレの活動に参加したい！ <http://www.ligare.jp/>

打ち水プロジェクト／エコキッズ探検隊

ビル街でも季節を感じる打ち水イベントや、子ども向け環境教育プログラムも展開しています。打ち水はエリア5カ所（行幸通り、サンケイビル、三井物産前カルガモ広場、東京国際フォーラム、有楽町駅前広場）で実施し、のべ217社・団体、2,900人の方が参加。浴衣姿で集まったの打ち水風景は、すっかりまちの風物詩に。エコキッズ探検隊は夏休み期間中、22講座・1,037人が参加したほか、千代田区内の小学校へ「出前授業」を6校・7講座実施しています。



打ち水プロジェクト2012（行幸通り）

打ち水プロジェクトで涼もう！（2013）
<http://ecozzeria.jp/project/uchimizu.html>
エコキッズ探検隊で学びたい！（2013）
<http://ecozzeria.jp/project/ecokids.html>

ビジネスコミュニティ

大丸有は、4,000を超える事業所が集まるビジネス街。各企業が事業活動を推進するとともに、まちづくりやビジネス創出に向けて、多様なテーマで企業が連携した会合・活動が行われています。

大丸有協議会

大丸有協議会では、ガイドライン、まちづくり、PR・情報化に関する検討会や都市再生推進、環境・エリアマネジメントに関する委員会が定期的に行われています。安全・安心や都市観光・文化に関する研究会も開かれ、会員企業参加者の知見を共有し、日々の活動やまちの将来像へ反映しています。
大丸有協議会
<http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp>

日本創生ビレッジ、東京金融ビレッジ



東京金融ビレッジ

事業開発支援、ビジネス交流、パートナー紹介、オフィス提供等を手掛ける「日本創生ビレッジ」では国内外のベンチャーを含めた企業支援や、インド関連企業とのビジネスを推進する「インドエコノミックゾーン」等を展開しています。10月には、東京都の「アジアヘッドクォーター特区」の取り組みの一環として、特区内へ進出する外国企業を対象に、ビジネス支援、生活支援等日本での事業展開のワンストップサー

店舗コミュニティ

まちづくりを担うステークホルダーとして、飲食・物販などの店舗との連携・協業も広がっています。

エコ結び・打ち水weeks

Suica、PASMO等を使って加盟店で買い物、飲食をすると環境向上につながる「エコ結び」。2012年度は、千代田区さくら基金、エコ結びの森（新潟県）、石巻工房ワークショップの活動をサポートしました。7月下旬～8月末には、丸の内仲通りや有楽町エリアの95店舗・施設の参画で、涼しくまち歩きしやすい環境づくりを図る「打ち水weeks」も展開。
エコ結び <http://ecomusubi.com/>

食育・地域連携

「食育丸の内」では、「丸の内シェフズクラブ」と連携した山梨県産品ランチ、発酵食品ランチ、スイーツプレート企画を実施。丸ビル「マルキューブ」でのマルシェや、青空市場とのコラボによる「丸の内の行幸マルシェ」は、第2・第4金

ビスを提供する「ビジネスコンシェルジュ東京」がオープン。同じく10月、「大手町フィナンシャルシティ」に国際金融人材の育成を主眼とした「東京金融ビレッジ」がつくられました。
日本創生ビレッジ <http://www.egg-japan.com/>
東京金融ビレッジ <http://www.fine-tokyo.com/>

環境経営サロン／CSRイノベーションWG



環境経営サロン

企業が集まり「環境経営」を推進するための事例・課題の紹介を行いながら、経営層による交流を深める「環境経営サロン」が6回開催されました。2011年度の内容は『環境でこそ儲ける』として書籍化されています。「CSRイノベーションWG」（9回実施）では、各企業の広報、環境・CSR担当者が活動の推進・連携を進め「エコのまど2012」（参加32社）をまとめました。
環境経営サロン <http://www.ecozzeria.jp/wg/env/>
CSRイノベーションWG <http://www.ecozzeria.jp/wg/csr/>



行幸マルシェ

曜日の行幸地下通路で行われ、ビジネス街でも気軽に野菜や果物、お米や加工品が買える取り組みとして定着。生産者とレストランをつなぐ「つながる食プロジェクト」では、生産者、物流事業者、レストラン・保育所（計21カ所・2013年3月末現在）が連携し、マッチングや産地ツアー、試食会等を行いながら、食材の共同購入と共同配送によるCO₂排出量削減（2012年度・約16,060kg-CO₂）を両立させています。
食育丸の内 <http://shokumaru.jp/>
青空市場 <http://aozora-ichiba.co.jp/p>
大丸有つながる食プロジェクト <http://tsunamaru.jp/>

安全・安心

長い歴史につちかわれた経験と、エリアの特性を活かしながら、安全・安心のまちづくりを進めています。

大丸有エリアは、約23万人が働く一大ビジネスセンターであり、食事・買い物、美術館めぐり、イベント等、まちを楽しむ来街者が多く集う場所でもあります。大丸有エリアは、「危険度の低い地理特性」「安定性の高いエネルギー供給」「信頼性の高い情報システム・ネットワーク環境」「行政・地域コミュニティとの連携」という特性を活かしながら、さらなる安全・安心なまちを目指した取り組みを進めています。

地震時の町丁別危険度（町丁目 5,099 中のランキング表示）

※東京都第6回地域危険度報告書東京都2008年資料
※町丁目総数は5,099
※順位が低いほど危険度が低い

建物倒壊危険度		火災危険度	
町丁目	順位	町丁目	順位
：		：	
千代田区有楽町1丁目	4151	千代田区有楽町1丁目	4252
千代田区丸の内1丁目	4232	千代田区丸の内1丁目	4882
千代田区丸の内3丁目	4367	千代田区丸の内3丁目	4981
千代田区大手町2丁目	4534	千代田区大手町2丁目	4978
千代田区大手町1丁目	4734	千代田区大手町1丁目	4970
千代田区丸の内2丁目	4830	千代田区丸の内2丁目	5059

総合危険度

町丁目	順位
：	
千代田区有楽町1丁目	4252
千代田区丸の内1丁目	4584
千代田区丸の内3丁目	4704
千代田区大手町2丁目	4786
千代田区大手町1丁目	4890
千代田区丸の内2丁目	4969

歴史

大丸有の災害対応は、1923年の関東大震災時に、飲料水の提供、炊き出し、臨時の診療所開設等が行われた頃から続いています。震災直後から官庁・企業・商店等が次々と大丸有エリアに移転し、政治・経済の中枢機能として、東京の復興に寄与しました。世界有数のビジネス街となった現在まで、その姿勢が受け継がれています。

高い耐震性能

2012年度に加わった建物にも当然、免震構造・制震（制振）構造等が採り入れられています。地震による直接の揺れとともに、長周期地震動にも対応し、揺れを早期収束させる工夫が広がっています。

ハード面での備え

停電時に稼働する非常用電源を各所に備え、また業務継続を重視する立地企業向けに、発電機設置スペース、オイルタンクを用意したビルも増えています。また、水害対策として、防潮板、防水扉の整備や、重要機械室への浸水を防ぐ対策も進んでいます。あわせて、断水時にも継続的に雑用水（トイレ等）、飲料水の利用ができる対応も増えています。

平常時からの備え

災害対応には、いざという時に使える、動けるようにするため、日頃から知っておく、慣れ親しんでおくことがリスク軽減に寄与します。

2004年に設立された東京駅周辺防災隣組は、千代田区や、区内3地区（富士見・飯田橋地区、四ツ谷地区、秋葉原地区）の地域協力会との共催で、2013年3月にシェイクアウト訓練、帰宅困難者対応訓練を実施しました。通常の防災訓練に加え、

情報機動ステーションの設置、情報連絡体制の確認や、電気自動車を電源に用いての通信訓練・防災機器使用訓練などを行いました。また外国人就業者向けに英語に対応した防災訓練等も実施しています。三菱地所が実施した自社の総合防災



9月防災隣組訓練

訓練（9月）の際に、テナント企業も参画（150社・約400人）するなど、まちの各所で実践的な訓練が行われました。また、千代田区が民間事業者等と締結する「大規模災害時における被災者受け入れに関する協定」により、認定されたビルが「被災者一時受入施設」となり、大規模災害時には帰宅困難者受け入れ・支援を行います。

個人への意識啓発

まちぐるみ、企業単位での防災の取り組みとあわせて、個人向け啓発活動に日頃から取り組んでいます。

リガーレでは丸の内消防署の協力を得て「普通救命ステップアップ講習」を実施し、「普通救命技能認定証」の取得者拡大を進めました。また、日頃まち歩きを行う「丸の内ウォークガイド」の特別編として「丸の内防災ツアー」を実施し、設計の専門家による耐震性能のレクチャーや、三菱一号館、丸ビルの防災設備見学を実施しました。

まちメディアとしてイベント情報・ショップ情報等を流す「丸の内ビジョン」（エリア内約90カ所に設置）では、災害発生時には公共放送への切り替え・災害対応の提供を行います。



丸の内ビジョン



リガーレセミナー

また、日頃から帰宅困難者対応等の情報を発信し、買い物・食事等を楽しむ人たちがビジネスでの来街者に向けた意識啓発を行っています。

地域防災の仕組み・組織

大丸有協議会内につくられた安全・安心まちづくり研究会では、協議会会員企業による、共同での災害対策の検討が進められています。帰宅困難者対策地域協力会「東京駅周辺防災隣組」には企業・団体84組織が参画して、防災訓練などエリアによる防災・減災・帰宅困難者支援対策等の取り組みを、千代田区、丸の内警察署、丸の内消防署、エリア内企業等と連携を強めながら展開しています。

エリアを超えた取り組み

大都市圏の防災対策・帰宅困難者対策を検討・推進するために、大丸有だけでなく、企業集積・交通結節点等、同じような状況にある全国のエリアマネジメント団体や構成企業が集まる「環境まちづくりサロン」が、2011年から開催されています。大都市圏での災害対応とエリアマネ団体の役割についても積極的に情報交換、議論がされています。より実践的に公民協調の深度化を進めるため、2012年度は名古屋・大阪・東京でシンポジウム形式による「環境まちづくりフォーラム2012」（委員長：小林重敏氏、後援：国土交通省、名古屋市、大阪府、大阪市、東京都、千代田区、横浜市ほか）が開かれ、各地域での災害対策の実例や今後の方向性について共有が進んでいます。

東京駅周辺防災隣組

<http://www.udri.net/tonarigumi/indexonarigumi.htm>

丸の内エリアの災害対策（三菱地所）

<http://www.mec.co.jp/j/service/office/pdf/mec20111108.pdf>

丸の内ビジョン

<http://www.maru-vision.com/>

環境まちづくりフォーラム2012

<http://machizukuri-forum.net/>

千代田区の防災

<http://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/kurashi/bosai>

東京都の防災

<http://www.bousai.metro.tokyo.jp/>

ACTION

2012年度のCSRアクション

まち育て——新たな価値づくり

まちづくりは、ビルが新しくなって終わり、イベントを実施して終わり、ではありません。
つくったものをどう成長させるか——「まち育て」による価値づくり・価値向上が欠かせません。

「大丸有まちづくりガイドライン2012」

公民協調・開かれたまちづくりの観点で、まちづくりを進める具体的な指針として大丸有まちづくり懇談会（東京都・千代田区・JR東日本・大丸有協議会）が策定。「ガイドライン2012」は、災害対応力強化に関する部分改定に加え、国際競争力強化・都市観光・環境共生の観点を加えてまとめられ、まちづくりの方向性を広く周知しながら、独自の魅力をもった価値あるまちづくりを進めています。

大丸有まちづくり懇談会

<http://www.aurora.dti.ne.jp/~ppp/index.html>

公民連携プロジェクト

11月の2日間、農林水産省が主催する「ジャパンフードフェスタ2012」に協力しました。丸の内仲通りから有楽町駅周辺には113団体が出展し18万人が来場する中、日本の食文化、東北復興、料理マスターズなどさまざまな食材・食文化の発信・体験が行われました。

大丸有協議会は東京都と共催で、東京2020年オリンピック・パラリンピック招致活動を盛り上げるため、「新春丸の内スポーツ年始め」を開催しました。丸ビルに特設された「招致祈願神社」に猪瀬直樹東京都知事やロンドンオリンピックメダリストたちが招致成功を祈りました。集まった子どもたちは晴れ着姿の選手たちとともに、羽根つき、福笑い、餅つき、だるま落とし等で交流を深めました。

観光機能の強化

J Pタワーに「東京シティアイ」、東京駅丸の内駅舎に「JR東日本トラベルサービスセンター」が設置され、TIC東京（丸の内トラストタワーN館）、JNTO TIC（新東京ビル）も含めて外国人観光客向けの情報提供が充

東京シティアイ

実しています。

エリア内移動手段の一つとして定着している丸の内シャトルや、スカイバス東京も国内外観光者の人気が高まっています。また、パレスホテル東京、東京ステーションホテルの開業により、エリア内客室数も1,722室に増えました。

リガールでは、気軽にまちを楽しみたい人に向けて、大丸有のまち歩き「丸の内ウォークガイド」を、「浪漫」「歴史」「アート」をテーマに、定期的に開催しています。

東京シティアイ

<http://www.tokyocity-i.jp/>

JR東日本トラベルサービスセンター

<http://www.tokyoinfo.com/guide/station/jretsc.html>

丸の内ウォークガイド

<http://www.ligare.jp/mwg/>

文化イベントの開催

ビジネス街・大丸有でも文化体験のイベントが広がっています。ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン（「熱狂の日」音楽祭）は、東京国際フォーラムを中心に丸の内エリア各所で実施され46万人が来場する等、すっかり定着しました。2007年から始まった現代アート展「アートアワードトーキョー丸の内」は6年目を迎えました。全国の美術大学・芸術大学の卒業・修了制作展から選抜された30の作品が、行幸地下ギャラリーにずらりと並び、まちを彩りました。

ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン

<http://www.lfj.jp/>

アートアワードトーキョー丸の内2012

<http://www.artawardtokyo.jp/2012/ja/>



ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン

ACTION

3団体のアクション



一般社団法人

大手町・丸の内・有楽町地区

まちづくり協議会（大丸有協議会）

- 大丸有の地権者による、まちの将来像検討や行政への制度提案等を行うまちづくり組織
- サステナビリティ、国際間競争力、賑わいと文化、風格と活力、環境共生、安全・安心、公民協調
- 国際ビジネスセンターである大丸有、そして世界都市東京の発展に向けて

目的・ビジョン

大丸有エリアは、国際ビジネスセンターとして国内外の有力企業が集積する経済活動の中心となっています。

当協議会は、日本が世界経済の中心の一つとして発展を続けていくために、本エリアの整備強化が不可欠であると考え、自ら具体的なまちづくりを考える地権者組織として設立されました。

当協議会は、大丸有エリアの再開発指針「まちづくりガイドライン」を踏まえた、「公民協調」のまちづくりを推進することにより、本エリアの付加価値を高め、東京の都心としての持続的な発展に寄与することを目的に活動を進めています。

活動概要

当協議会は、民間地権者を主体とするまちづくり組織として、環境、防災、都市観光等、多様な都市機能の観点からまちの将来像を検討しています。また、東京都、千代田区、JR東日本、当協議会の4者により公民協調の場として設立した、「大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり懇談会（大丸有懇談会）」を通じ、都市計画と連動した多様な価値を生み出すまちづくりを実践しています。さらに、賑わい創出や文化発信等のための各種イベント主催および協賛、まちづくりの認知や理解を広げるためのホームページやまちづくり情報誌「ON！」等を通じた情報発信を行っています。

2012年度のトピックス

重点課題として、防災、都市観光についてまちの将来

像の検討に取り組みしました。防災については、エリア防災計画（DCP）策定に係る基礎調査の実施、共助の考え方をもち防災拠点機能ビルの整備を推進する審査会制度の試行運用の開始等、具体的アクションを進めています。また、都市観光については、2012年度に開催されたIMF・世界銀行総会におけるまちへの影響と効果をアンケートにより調査し、本エリアならではの都心型MICEのあり方について検討を始めました。

大丸有懇談会では、これらの検討内容も踏まえた上で、「まちづくりガイドライン」を改定しました。このガイドラインによる、公民が協力するまちづく

りにご期待ください。また、大丸有懇談会としても支援してきた東京駅丸の内駅舎の保存・復原工事が完成し、東京中央郵便局の一部保存とともに新しい東京の“顔”として多くの人を惹き付けています。

まちの情報発信として、マップを見ながら大丸有の歴史を学べる「大丸有MAP-ON！」というWebサイトを新たに立ち上げるなど、就業者、来街者に一層このまちへの愛着をもってもらえるような取り組みを進めていますので、是非ご活用ください。

大丸有MAP-ON！ <http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp/map-on/index.html>



行幸通りから見る東京駅

お問い合わせ先

〒100-8133
東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル6階
☎03-3287-6181
machizukuri@otemachi-marunouchi-yurakucho.jp



ACTION

3団体のアクション



NPO 法人

大丸有エリアマネジメント協会 (リガーレ)

- 大丸有エリアをより魅力あふれるまちへと発展させるために活動する、まちづくり団体
- 活動の3本柱、環境、交流、活性化。キーワードは「結ぶ」
- エリアマネジメント活動を通して「まち」と「人」を結ぶ

目的・ビジョン

当協会は、大丸有エリアにおいてまちをより一層活性化させ、人びとの多様な参加・交流の機会創出を目的に、エリアに関わりのある企業・団体やワーカー、学識者、弁護士等が集まって2002年9月に設立されたNPO法人です。愛称の「リガーレ」は、ラテン語で「結ぶ」という意味。このまちで働く人が毎日を気持ちよく過ごせるように、このまちを訪れる人に楽しく充実したひと時を過ごしてもらえるように、スタッフ5名が力を合わせ、日々まちと人を結ぶ案内役として活動しています。

活動概要

当協会の活動は「環境」「交流」「活性化」の3つの柱がベースとなっています。

「環境」

環境に優しい「丸の内シャトル」等の運行支援、公開空地等の活用やフラッグ掲出によるまちの賑わい形成活動を行っています。

「交流」

毎年約60チームが参加して行われる丸の内軟式野球大会の運営、さまざまなジャンルのカルチャーセミナーを開催しています。

「活性化」

エリア内のガイドツアー、「丸の内検定」の実施。また、国内外から訪れる来街者向けの視察対応等を通して、幅広く大丸有エリアの情報を発信する活動をしています。



丸の内軟式野球大会

2012年度のトピックス

当協会の10周年記念事業として「環境まちづくりフォーラム2012」を開催しました。大都市都心部のエリアマネジメント活動は、当協会が初めて本格的に開始したのですが、現在では多くのエリアマネジメント組織が活動を本格化させています。当協会は2011年度より、これら組織のネットワーク化を図るとともに、それぞれの組織が活動を進める中で顕在化してきた課題の意見交換をしてきました。近年は、エリアマネジメント活動に、地球環境問題や防災・減災問題への対応など、社会情勢に対応した公共性の高い活動が新たに求められてきています。これらの活動を本格的に進めるためにフォーラムを開催し、活動に必要な事柄を『提言』として取りまとめました。この『提言』を、フォーラムで発表したことにより、各エリアマネジメント組織だけでなく、それを支える国や地方自治体も含めた公民相互で共有することができました。また、各組織のネットワーク化もより進めることができたと考えています。なお本フォーラムは、名古屋・大阪・東京の三都市で開催し、総勢約900人の方にご参加いただきました。



環境まちづくりフォーラム東京会場

環境まちづくりフォーラム2012ホームページ

<http://machizukuri-forum.net/>

〒100-8133
東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル635号
☎03-3287-5386
<http://www.ligare.jp>

ACTION

3団体のアクション



一般社団法人

大丸有環境共生型まちづくり推進協会 (エコッツェリア協会)

- 大丸有の環境共生型まちづくりを推進・実践する地区内共有のシンク&ドゥタンク
- サステナブルコミュニティ、環境共生×防災・健康・創造、CSV、都市と地域の連携
- 人びとのいきいきとした活動がつながって未来を生み出し続けるまちづくり

目的・ビジョン

当協会は、大丸有エリアにおける地球温暖化対策や、資源循環社会の構築、ヒートアイランド対策といったさまざまな都市の環境課題を解決するため、2007年5月に発表された「大丸有環境ビジョン」を実現する実践組織として、同年6月に設立されました。地権者やビルオーナー、テナント、就業者、来街者、国、東京都、千代田区、エネルギー供給事業者、技術やノウハウをもつ企業や大学、まちづくり団体等多様なステークホルダーが協働して取り組む活動の場と、新たな共有価値を創出します。

活動概要

国際ビジネスセンターとしての集積を活かし、多様なコミュニティによる実践的な活動を推進しています。打ち水やエコキッズ探検隊等のイベントや地球大学等の各種セミナーによる普及啓発と情報発信、企業コンソーシアムや経営者・実務者によるワーキンググループによる事業創発や、活動の裏付けとなる調査研究と実証事業の企画運営、丸の内朝大学等を通じたライフスタイル提案と人材育成といったエリア内での活動に加え、再生可能エネルギーや水、食糧など、大丸有と他の地域が連携して新たな価値を生み出す事業を開発します。



打ち水プロジェクト2012

2012年度のトピックス

数千人規模の就業者が参加する地区一体のイベントと

なった打ち水は8年目を迎え、さらなる定着化を図るため、丸の内仲通りの路面店舗が日常の風景として行う「打ち水weeks」としても展開しました。

さまざまな社会課題に取り組む次世代のリーダーとして期待される若者達が集い、第一線で活躍するデザイナーやプロデューサーたちとの対話から、ソーシャルデザインを学ぶワークショップ「3*3ラボ」の定期開催を始めました。

5年目を迎えた「丸の内朝大学」の卒業生はのべ7,682人となり、大学での学びに加え、受講生や卒業生たちが地域プロデューサーとして実際に活躍を



丸の内朝大学

始めました。都市と地域のつながりを深める実践的な取り組みが評価され、グッドデザイン特別賞「グッドデザイン・地域づくりデザイン賞」を受賞しました。

元環境省事務次官小林光氏を道場主に迎えた「環境経営サロン」には、企業経営者が集い、対症療法的な環境対策ではなく、現業の経営資源を活かし、新たな共進化を生み出すコーベフィット型の環境事業創発による差別化戦略について、活発な議論が交わされました。その成果は東洋経済新報社より『環境でこそ儲ける』と題して書籍化されました。

〒100-0005
東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸ビル10階
☎03-6266-9400
concierge@ecozeria.jp
<http://ecozeria.jp>



PERFORMANCE

大丸有の健康診断

大丸有のCSRアクションはどのくらい進んでいるのか。
わかりやすい数字をもとに具体的な成果を紹介していきます。

大丸有の廃棄物発生量

56,242 t

エコツェリア協会は、2012年度に大丸有エリアの皆さんのご協力を得て、各ビルにおいてどのような種類の廃棄物がどれくらい発生し、どれくらいの廃棄物がリサイクルに回っているのか、調査を行いました。

ここでは、この調査結果から、大丸有で発生している廃棄物の量やその特徴についてご紹介します。

大丸有では廃棄物がどれくらい出ているか？

今回の調査では、大丸有にある40棟のビルから廃棄物に関するデータをご提供いただき、集計しました。それによると、この40棟合計で1年間に約24,000tの廃棄物が発生していることがわかりました。さらにこのデータをもとに、大丸有全体（101棟）の廃棄物発生量を推計してみたところ、エリア全体の1年間の廃棄物量は約56,000tとなりました。

大丸有の就業者は約23万人なので、1人あたり年間で約245kgの廃棄物を出していることになります。

大丸有の1年間の廃棄物発生量	1人あたりの1年間の廃棄物発生量
56,242 t	245kg

大丸有ではどんな廃棄物が多い？

紙類のごみが最も多く、約半分を占めています。その次に多いのは、生ごみや弁当ガラといった食事関係から出るごみの約33%で、缶やペットボトルという飲み物関係のごみが約10%と続きます。

このように大丸有の廃棄物は、オフィス生活を営む私たち

が日常的に使う、紙や飲食によって発生するものが、そのほとんどを占めているということがわかります。

廃棄物の種類	紙類	食事関係		飲み物関係	
		生ごみ	弁当ガラ	ビン・缶	ペットボトル
発生割合	51%	30%	3%	7%	3%

大丸有ではどれくらい廃棄物をリサイクルしているか？

発生した廃棄物のうち、約65%がリサイクルに回されています。千代田区にある大規模ビルの平均的なリサイクル率は約67%（2011年度）なので、ほぼ同じ状況となっています。また、リサイクル率は廃棄物の種類によって大きく違いがありますが、紙ごみのリサイクル率は約86%と高い水準にあります。生ごみや弁当ガラは約20%程度に留まっています。これらの廃棄物は量も比較的多いので、これらのリサイクルを進めていくことによって、エリア全体のリサイクル率が向上されることにつながります。

大丸有にあるホテルは生ごみのリサイクル率が非常に高いので、これらの先進的な取り組みをエリア全体で共有していくことが今後の課題です。

リサイクル率	合計	紙類	食事関係	
			生ごみ	弁当ガラ
大丸有地区	65%	86%	22%	18%
千代田区	67%	75%	26%	35%

大丸有でのCO₂排出量

72万t-CO₂程度
(2010年度)

67万

t-CO₂程度
(2011年度)

エコ結び加盟店舗数

190店舗

600店舗
(2013年3月31日時点)

「エコ結び」は、エリア内加盟店舗での、ショッピングや食事の支払いに、Suica・PASMO等を使って決済することで、利用額の1%が自動的にエコ結び基金として貯まるというものです。基金は、千代田区の桜の景観を保存するための「千代田区さくら基金」、東日本大震災で被災した岩手県葛巻町および釜石地方森林組合などに投資されています。加盟店舗数は、丸の内商店会が全店舗加盟されたこと、J PタワーにK I T T Eがオープンしたことなどにより600店舗と、1年前の190店舗から大幅に増えています。集まった基金総額も20,996,600円、参加(利用)されたのべ人数も194万人となり、エコ結びの輪は着実に広がっています。

大丸有にある建物の2011年度におけるCO₂排出量は約67万t-CO₂で、前年比で約7%の減少となりました。3月11日に東日本大震災が発生し、福島第一原子力発電所が被災した影響もあり、2011年度は1年を通して節電に取り組んだ年となりました。その効果がこの減少率にも反映されていると考えられます。その一方で、省エネが単に我慢を強いる行為ではなく、企業にとり無駄なコストの削減となり、競争力向上につながる、まさに「環境でこそ儲ける」という意識も定着しつつあります。人感センサーなど照明システム、太陽光発電システム、外壁利用型冷媒自然循環冷却システムなど新しい省エネ技術を積極的に導入し、ハード・ソフト両面で多面的な広がりを見せています。

●算出方法

東京都環境局へ排出量実績を報告しているビルの中から、2013年7月31日時点で2011年度の実績が公表された、31棟のCO₂総排出量からCO₂排出原単位を求め、大丸有エリアの推定延べ床面積に乗じて得た理論値。

環境まちづくりサロン

参加団体数

58団体

環境まちづくりサロンは2011年度から継続実施しているもので、2012年度は3回にわたって開催しました。参加団体数は2012年度の13団体から、58団体へと大幅に増加し、エリアマネジメント組織の課題や情報を共有する場として、着実な歩みを進めています。さらに2012年度は、サロンの拡大版として名古屋、大阪、東京の3都市で「環境まちづくりフォーラム」を開催し、総勢約900人の方にご参加いただく中で、これからのエリアマネジメントに必要なものを7つの「提言」にまとめあげました。

提言全文

http://machizukuri-forum.net/images/index_img/URF2012_recommendation.pdf

PERFORMANCE

大丸有の健康診断

太陽光パネルによる発電出力

1,072 kW
(2012年度)

再開発が進む大丸有では、次々と竣工する新ビルに太陽光パネルが設置され、エリア全体の発電出力は、年々増加しています。昨年からＪＰタワー（発電量60kW）、大手町フィナンシャルシティ（発電量32kW）に新たに太陽光パネルが設置され、発電出力量はメガソーラークラスの約1,072kWとなりました。

設置場所	発電量	設置年
東京駅新幹線ホーム	30kW	1993年
東京国際フォーラム	92kW	1997年
丸ビル	10kW	2002年
三菱UFJ信託銀行ビル	30kW	2003年
新丸ビル	20kW	2007年
グラントウキョウノースタワー	5kW	2007年
丸の内パークビル	60kW	2009年
東京駅東海道線ホーム	453kW	2010年
三井物産ビル	150kW	2011年
丸の内永楽ビル	100kW	2012年
パレスホテル東京・パレスビル	30kW	2012年
ＪＰタワー	60kW	2012年
大手町フィナンシャルシティ	32kW	2012年

大丸有に本社を置く一部上場企業の売上高

135兆1,180億円
(2011年度)

※東京証券取引所ホームページの、2011年末の上場企業数に、2012年1月から3月までの新規上場企業数（0）、上場廃止銘柄数（10）を加減して試算した数値。



トップレベル事業所の認定数

11 事業所
(2013年3月31日時点)

エリア全体で環境まちづくりを進める大丸有には、環境対策の推進が極めて優れた「トップレベル事業所」として、東京都環境局の認定を受けた事業所も多くあります。2012年度末までに、トップ事業所として8事業所、準トップ事業所として3事業所認定を受けています。この数は都全体の79事業所の13.9%になります。

レベル	認定年度	事業所名
トップレベル事業所	平成22年度	サビアタワー
		新大手町ビル
		丸ビル
		三菱商事ビル
		明治安田生命ビル・明治生命館
	平成23年度	グラントウキョウノースタワー
準トップレベル事業所	平成24年度	新丸ビル
		グラントウキョウサウスタワー*
	平成22年度	丸の内トラストタワー
		丸の内熱供給
		丸の内一丁目・二丁目センター
	平成23年度	グラントウキョウサウスタワー
		丸の内センタービル・新丸の内センタービル

※準トップレベルに認定された後に改めてトップレベルに認定された事業所。

大丸有には84社の東証一部上場企業がその本社を置いています。この数は、全東証一部上場企業1,662社*の約5%を占めていることになります。一方で2011年度の売上高をみると、84社の売上高は135兆1,180億円で、日本国内における総売上1,302兆2,523億円の10.4%となり、日本経済を牽引している企業が多く集積していることがわかります。



指標の一覧 もっと大丸有を数字で知りたい方へ

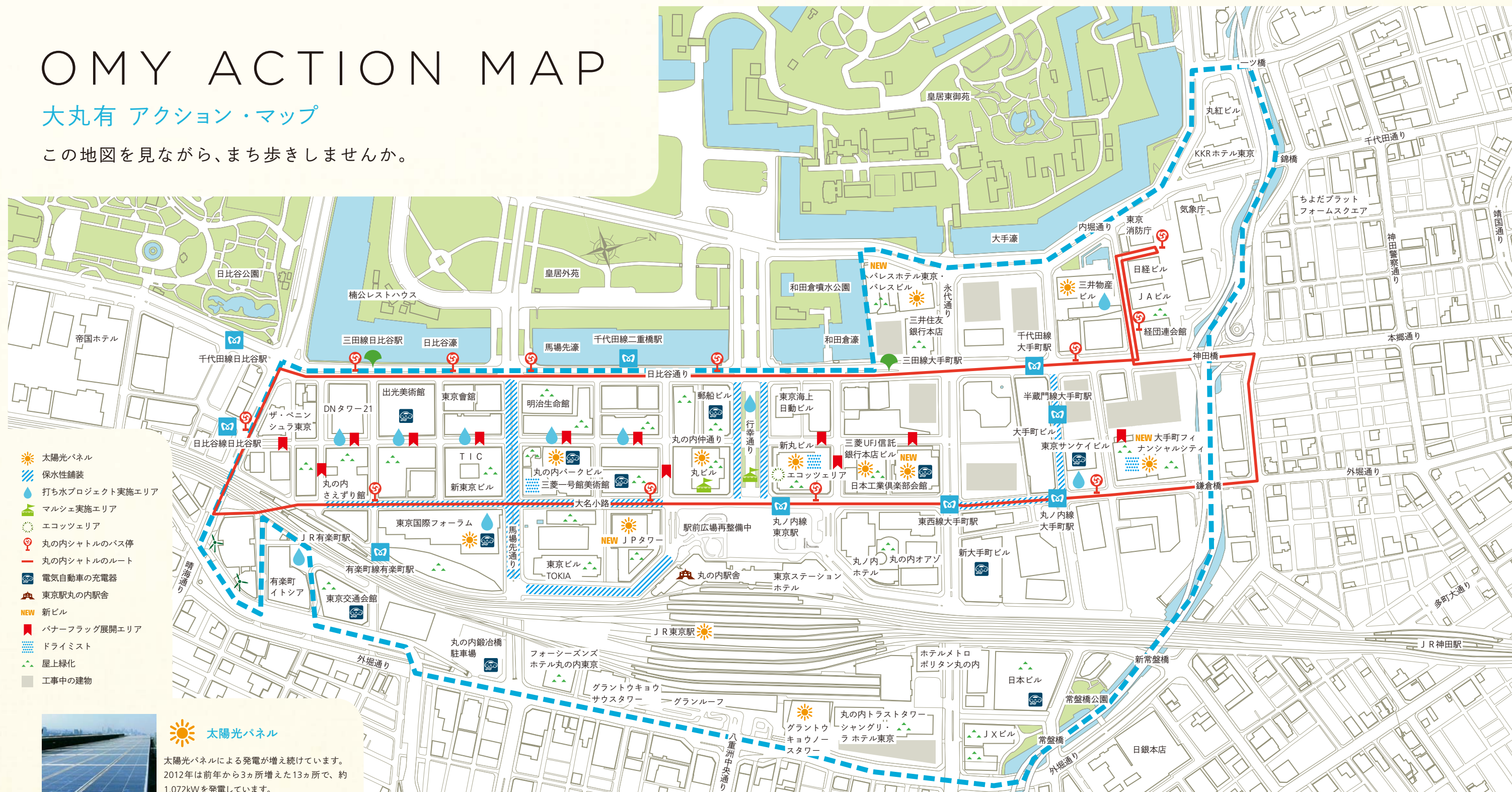
基礎指標	実績値	備考
就業者数	約23万人	大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会パンフレット2013
事業所数	4,187事業所	大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会パンフレット2013
住民基本台帳による住民数	28人	2013年1月時点。東京都「住民基本台帳による世帯と人口」住民基本台帳による東京都の世帯と人口（町丁目・年齢別）
容積対象床面積	約617万㎡	エネマネ2009報告書より。2006年度時点の容積対象床面積推計（約551万㎡）を算出し、2006年度以降に新築・解体したビルを加減して算出
建築物数	101棟	大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会パンフレット2013
緑被率	6.4%	2013年千代田区緑の実態調査および熱分布調査業務より試算。水面含む
鉄道網	13駅20路線	13駅は大手町、東京、二重橋前、日比谷、有楽町（地下鉄について、路線の異なる同一名の駅は路線分計上）。20路線はJR13路線、都営地下鉄1路線、東京メトロ6路線
駅の乗降客数の一日平均	226万8,077人	新幹線を除く。オリコム交通局媒体「Circulation transit / outdoor ads サーキュレーション資料 2012年版」
経済指標	実績値	備考
大丸有地区に本社を置く上場企業の売上高合計と、日本の総売上高の割合	約135兆円1,180億円 約10.4%	2011年度。大丸有地区に本社を置く84社の連結売上。日本全体の売上高は経済センサス
大学のブランチ数	11大学	関西大学、関西学院大学、慶應義塾大学、甲南大学、埼玉大学、千葉商科大学、東北大学、東洋大学、名古屋商科大学、北海道大学、立命館大学
グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク加入企業（国連グローバルコンパクト）	22事業所	2013年4月24日時点。グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク ホームページ参照
社会指標	実績値	備考
一般受け入れをしている託児・保育施設の数	3カ所	大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会パンフレット2013
病院・診療所の数	88カ所	大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会パンフレット2013
バリアフリー法の認定を受けた建物の延床面積と全体に占める割合	231.9ha	バリアフリー法第17条認定建築物一覧（1994年～2011年度）（旧ハートビル法のものを含む）
千代田区と帰宅困難者受け入れについて協定締結した施設数	13カ所	大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会パンフレット2013
環境指標	実績値	備考
太陽光パネルの発電出力	約1,072kW	大丸有13カ所に設置されている太陽光パネルの発電出力合計
エネルギー使用量（建物など）	1万5,066TJ	大丸有地区の三菱地所所有のISO14001 取得ビル21 棟実績（2012年度）より推計（参考値）
CO ₂ 排出量（建物など）	約67万t-CO ₂	東京都環境局へ排出量実績を報告している31棟（2011年度）から推計（参考値）
保水性舗装が施された道路の面積	約3万7,600m ²	2011年3月時点。三菱地所都市計画事業室調べ
屋上緑化の面積	約1万6,000m ²	2013年7月時点。三菱地所都市計画事業室調べ
上水使用量	約643万㎡	大丸有地区の三菱地所所有のISO14001 取得ビル21 棟実績（2012年度）より推計（参考値）
事業系廃棄物排出量	約5万6,000t	2012年度調査結果（調査実施事業者：エコツヅェリア協会）
ゼロタクシー導入によるCO ₂ の削減量	2.4t-CO ₂	2012年度の走行距離（24,953.6km）から試算。日の丸リムジン調べ
丸の内シャトル乗車人数	約62万人／年	リガーレ調べ
都市開発諸制度活用事例数	30件	大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会パンフレット2013
トップレベル事業所（優良特定地球温暖化対策事業所） 認定数	11件	東京都環境局 気候変動対策ホームページ「トップレベル事業所」（認定実績2010年～2012年）
コミュニティ指標	実績値	備考
丸の内ウォークガイド参加人数	538人	2012年度
丸の内マルシェの利用人数	行幸マルシェ：102,900名 丸ビルマルシェ：37,500名	2012年度
リガーレセミナー参加人数	283人	2012年度。リガーレが10回開催したセミナーののべ参加人数
丸の内検定受験者数・合格率	受験者241人 合格率53.9%	第5回丸の内検定（2012年7月11日実施）
丸の内朝大学参加人数	2,568人	2012年度春学期、夏学期、秋学期ののべ参加人数
打ち水プロジェクト参加人数	約2,900人	2012年度
エコキッズ参加人数	1,037人	2012年度
環境まちづくりサロン参加団体数	58団体	2012年度
エコ結び加盟店舗数	600店舗	2013年3月31日時点



OMY ACTION MAP

大丸有 アクション・マップ

この地図を見ながら、まち歩きしませんか。



太陽光パネル

太陽光パネルによる発電が増え続けています。2012年は前年から3ヵ所増えた13ヵ所で、約1,072kWを発電しています。



保水性舗装

車道や歩道に保水性の高い路盤材を使用。雨の日は水たまりがでにくく、晴れの日には蓄えた水が気化して、まちの気温上昇を抑えます。



打ち水プロジェクト

打ち水で、ヒートアイランド現象を緩和。行幸通りなどでの打ち水イベントのほか、仲通りのショップによる「打ち水weeks」も実施。



マルシェ

行幸地下通路と丸ビルで開催される、ファーマーズマーケットに、2012年はのべ14万人が集まり、丸の内の定番イベントとなりました。



エコツェリア 新丸ビル

環境モニタリングデータを見える化した「触れる地球」「クロックマップ」を展示。知的照明・空調などの実証実験も実施。平日は見学OK。



丸の内シャトル ゼロタクシー

大手町・丸の内・有楽町を結ぶ無料巡回バス「丸の内シャトル」と電気自動車の「ゼロタクシー」は、大丸有を代表する環境対応の乗り物です。



東京駅丸の内駅舎

2012年10月にリニューアルオープンした丸の内駅舎。歴史と先進性の融合した魅力ある場所として、連日多くの人で賑わっています。



NEW 新ビルオープン 大手町フィナンシャルシティ、JPタワー等

再開発が進む大丸有。JPタワー、大手町フィナンシャルシティ等新ビルが続々オープン。来街者もショッピングなどを楽しんでいます。



パナーフラッグ

東京都におけるエリアマネジメント広告の第一弾であるパナーフラッグ。丸の内仲通りおよびその周辺で見かけることができます。

環境ビジョンからサステイナブルビジョンへ

2007年に私たちが発表した環境ビジョンにより、

大丸有エリアに経済的効率性ととともに、

環境に配慮する意識を育むことができました。

そして2014年、

環境への配慮だけでなく、社会や経済など、

より多様な課題に対してイノベーションを生み出し続け、

総合的なサステナビリティを高めていくための場として、

進化していくことを目指す新たなビジョン、

大丸有サステイナブルビジョンをリリースし、

次なる一步を踏み出していきます。

編集方針

大丸有のCSR

一般的にCSRは「企業の社会的責任」(“Corporate” Social Responsibility) のことですが、私たちのいうCSRは「コミュニティの社会的対応力」(“Community” Social Responsibility) を表しています。このレポートは、大丸有コミュニティを担うまちづくり団体の活動を「大丸有のCSR」の視点からまとめたものです。

発行日 2013年9月(次回発行予定2014年9月)

発行主体 大丸有CSRレポート制作委員会

〈構成メンバー〉

一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会

〒100-8133 東京都千代田区大手町 1-6-1 大手町ビル6階

<http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp/>

リガーレ(特定非営利活動法人大丸有エリアマネジメント協会)

〒100-8133 東京都千代田区大手町 1-6-1 大手町ビル635区

<http://www.ligare.jp>

エコツェリア協会(一般社団法人 大丸有環境共生型まちづくり推進協会)

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-5-1 新丸ビル10階

<http://ecozeria.jp>

制作 刺繍: シマツカオリ(有限会社スタジオ・フォーチュンクッキー)

デザイン: 永松大剛(BUFFALO.GYM)

編集: 株式会社クロスロード

<http://ecozeria.jp/csr2013>

報告範囲

東京都千代田区の手町、丸の内および有楽町の地域(大丸有協議会が定める一部の地区を除く)を報告範囲としています。

報告期間

原則として、2012年4月1日~2013年3月31日の取り組みについて報告していますが、一部それ以降の活動や計画についても記載しています。

再生紙



この冊子は、古紙パルプ配合率100%の再生紙を使用しています。このマークは、3R活動推進フォーラムが定めた表示方法に則り、自主的に表示しています。

W2インキ



成分に鉱物油を含まず、インキからのVOC(揮発性有機化合物)発生がゼロです。また、水性洗浄液でローラー洗浄が可能なので、洗浄液からのVOC発生もゼロ。大気汚染防止に配慮しています。

水なし印刷



印刷時に、VOCなどを含まず湿し水が不要となる水なし印刷を採用。大気汚染防止に配慮しています。

東日本大震災義捐金



東日本大震災復興支援型国内クレジット(1トン当たり1500円)を活用することで、被災地を支援しています。また、国内クレジット代金の一部である750円が、排出削減事業者から被災地3県の自治体を通して被災地へ寄付されます。

カーボンオフセット



本誌制作にて排出したCO2排出量1,312kg-CO2は、(社)日本カーボンオフセットを通じて、国内クレジット排出権と相殺し、削減しています。

グリーン電力証書



本誌の製版、印刷、製本において使用した電力量488kWhは、すべてバイオマス発電によるグリーン電力でまかなわれています。

グリーンプリンティング



本誌は、グリーン基準に適合した印刷資材を利用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮製品です。

リサイクル適性

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

この冊子を読み終わったら、興味がある人に渡し、お読みいただければ幸いです。ご不要になった際は、リサイクルに出して下さい。

森林保全

大気汚染防止

復興支援

地球温暖化防止

総合環境配慮

リサイクル促進